

# GELCHOPの



## レッツD.I.Y.

月イチでD.I.Y.なものづくり。

### 社長室の花瓶 meets 100均。

Product\_name

## Hierarchical Flower Vase

### Material

- ・花瓶 適量
- ・プラスチック容器 適量

### How to make

1 まずは、社長室にありそうな立派な花瓶を探そう。あくまでカスタムベース、好みでないのには目を瞑り、改造後のイメージを持つことが大事。今回の3点は、リサイクルショップと、珍品ばかりを扱う近所の骨董屋でゲット！

2 お次は庶民の味方、100均へ。色とりどりのプラスチック製品は、カットや穴開けが簡単なので、加工して、どのように組み上げるかを想像しながら品定めをしよう。完成イメージに不安がある場合は、幾つかの予備を購入しておくことをオススメ。

3 どう構成するかが決まったら、固定方法を考えながらカットラインを決めよう。カットラインをマーキングするにはトースカンが便利。モノを置いた台に対して水平線を引くときに使用する道具。簡単に自

作もできるので挑戦してみよう。

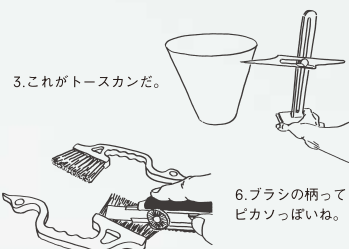
4 カットは、プラスチック用のノコギリ、専用のディスクを取り付けたグラインダーなど、スキルに合わせて選択しよう。プラスチック部分はサンディングをお忘れなく。

5 固定は、基本的におンドで接着。シリコン樹脂系の多用途ボンドがオススメ。水対策として接続部内側に、プライマーを塗布しコーキングを充填しておくこと。

6 飾りとしてブラシの柄もいい感じ。カッターで毛を切り落とし、取り付け位置を決定。花瓶に貫通しない程度の穴を開け、ダボピンとボンドで固定しよう。

7 さて行き場を失っていた社長室の花瓶は、100円ショップのプラ製品に救われ、飾ってもらえる代物に昇格したのだろうか？

ヒエラルキカル・フラワー・ベース 今回は、異なる価値基準の合体に挑戦。ひと昔前、社長室の三種の神器といえば、高級材のデスク、革張りソファに、威厳溢れる高価な花瓶。漏れなくウンチクがついて〇〇万円のお品。一方、生産コストと販売価格の釣り合いが理解不能な100均。何でも100円という別社会の基準は、いまや何の疑問もなく生活の一部に。どちらも価値と価格が、作ることから切り離されていて困惑してしまう代物。良くも悪くも、モノにもそれぞれ階層があるのはわかるけど、どちらも捨てられてしまえばただのゴミ。ここはひとつ平たい気持ちで、ひとつにまとめて飾ってみようじゃないですか。意外と違う世界が見えてくるかも……ってちょっと大袈裟か。



### はみだしのDIY

近所の珍品専門の骨董屋は、何があるやら、どれが商品やら、一見ただけではわからない。高級そうな花瓶から、剥製、民芸品まで、それなりのルールで陳列されている。どこにでもあるんじゃないの……なんて声が聞こえてきそうだが、この店のすごいのは集められたモノの珍しさじゃない。どこかで見たことのある民芸品や昔ながらの置物、現代のキャラクターが店主の感性で同じ木製の台座に接着され、セラー売りされているのである。わかりやすく例えると、キリストの瀬戸物&こけしだったり、シャケクマ&ピカチュウだったりするわけなのだが、意図が見えないミシカルな組み合わせに圧倒され、気付けば過去に5点は購入をしまっている。帰りがレジに持っていくと、1500円と書かれた値札を眺め、おじさんは、少し間を空け小さな声で「1000円でいいや」と、いつも値引きをしてくれる。

ゲルチョップ | D.I.Y.造形グループ。モリカワリョウタ、オザワテツヤ、タカハシリョウヘイがメンバー。オリジナルプロダクト、パブリックスペースのアートワーク、家具、車、フィギュア、食べ物、エネルギー……日々手を汚し、モノづくりの毎日。

